

1 国際教養学科

(1) 教育理念と人材育成の目的

国際教養学科では、変化し続ける世界の中で、英語と中国語を中心とした高い言語運用能力を用い、世界の政治や経済を社会科学の視座から分析し、社会現象の本質と情報の真偽を見極めることができる国際教養を身につけ、さらには、世界の社会文化的多様性について確かな理解に基づき、主体的に共生・協働できる、日本と世界を舞台に活躍できる「グローバル人材」の素養を身につけた人材の育成を目的とする。同時に、身につけた国際教養を用いて地域の課題を分析し、地域の発展に貢献できる「グローバル人材」の素養のある国際教養人を養成する。

(2) 教育課程の構成と概要

1) 教養科目

教養科目は全学共通科目、学部共通科目、キャリア形成（社会人基礎力）で構成されている。

全学共通科目は、人生や学びの意味、国家制度の基本、健康、教養人そして職業人として欠かせない情報処理と分析能力を養う。学部共通科目（共通外国語）においては、英語と中国語の言語運用能力の向上を目指し、さらには教養としての副言語（フランス語、朝鮮語、ロシア語）を学習する。学部共通科目（北海道スタディーズ）では、自然環境、社会、文化、歴史を通して、地域と世界のつながりや地域活性化における産業のあり方などを、「学部共通科目」領域の「北海道スタディーズ」科目群の科目を通して学習する。

2) 専門科目

専門科目は国際教養科目、キャリア形成（実用日本語）、語学研修、卒業研究で構成されている。

国際教養科目（国際教養英語）においては、大学の専門分野の学習や研究のための学術目的の英語を「国際教養科目」領域の「国際教養英語」科目群において学ぶ。国際教養科目（国際政治経済）ではグローバル化の中で変化し続ける社会状況の課題を、政治と経済を中心とした社会科学の多角的視点から分析し理解する力を養う。

国際教養科目（国際地域研究）では、世界の各地域や各国の社会、文化、政治に関する知識を日本と密接な関係にある諸地域や国々の知識から、世界の多様性と豊かさへの教養を学ぶ。

キャリア形成（実用日本語）では、職業人としての基礎となる母語である日本語の言語能力を養う。

語学研修Ⅰ～Ⅳは、必修の短期語学研修、私費留学、交換留学とは別に本学と協定する海外の教育機関において、言語に関する所定の受講修了時間数または取得単位を本学での単位として認定するものである。

卒業研究では、多様な社会文化的背景を持つ留学生と日本人学生とが、協働して課題発見・解決していく能力を養成する学修機会を設けている。

(3) 履修の方法

国際教養学科を卒業するためには、必修科目45単位を含め、全学共通科目領域から8単位以上、共通外国語科目群から10単位以上、北海道スタディーズ科目群から5単位以上、国際教養科目領域の中で、国際教養英語科目群から10単位、国際政治経済と国際地域研究のそれぞれの科目群から40単位以上、キャリア形成領域から20単位以上、語学研修から2単位以上、卒業研究から4単位を修得し、124単位以上を修得しなければならない。

(4) 免許・資格取得を目的とする場合

日本語教員資格

下記に定める大学日本語教員養成課程に必要な科目表に基づいて、日本語教員養成課程の修了者には「大学日本語教員養成課程修了証明書」を授与し、日本語教育機関等への就職応募資格を付与することとする。

大学日本語教員養成課程修了証明書の取得に必要な科目・単位数は次表の科目から必修40単位、選択必修16単位以上を修得すること。

国際教養学科 「日本語教員養成課程」 修了に必要な科目・単位数

領域	区分	下位区分	科目名	単位	単位要件			
コミュニケーション 言語に関わる領域	社会・文化に関わる領域	社会・文化・地域	世界と北海道	2	○			
			ニセコ国際研修	2	○			
			北海道の社会と文化(多文化共生)	2	○			
			①世界と日本	国際援助論 国際関係論 北米地域論 東アジア地域論 東南アジア地域論 地域連携プロジェクト	2	選択 4単位以上		
			②異文化接触					
			③日本語教育の歴史と現状					
			その他					
	教育に関わる領域	言語と社会	④言語と社会の関係	現代日本語論	2	○		
			⑤言語使用と社会	日本語ビジネスライティング	2	○		
			⑥異文化コミュニケーションと社会	国際地域文化論	2	○		
				国際社会学	2	○		
			その他	ヨーロッパ地域論	2	選択		
				アフリカ地域論	2	2単位以上		
			コミュニケーション	言語と心理	⑦言語理解の過程	ことばと心理(外国語学習法入門)	2	○
					⑧言語習得・発達	異文化接触論*	2	○
⑨異文化理解と心理	国際コミュニケーション演習 I *	1			○			
言語と教育	その他	⑩言語教育法・実習		日本語教育法 I	2	○		
				日本語教育法 II	2	○		
				日本語教育演習	1	○		
				統計の基礎	2	○		
		⑪異文化間教育とコミュニケーション教育		異文化コミュニケーション論*	2	○		
		⑫言語教育と情報		ICTリテラシー 情報処理	2 2	選択 2単位以上		
				メディア社会論 国際コミュニケーション演習 II *	2 1	選択 2単位以上		
言語	その他	⑬言語の構造一般 ⑭日本語の構造	日英対照言語学*	2	○			
			日本語学	2	○			
			世界の言語と日本語	2	○			
			日本語の表記と語彙	2	○			
				日本語表現技法 I	2	選択 2単位以上		
			日本語表現技法 II	2				
			日本語と日本文化	2				
		⑮言語研究	英語翻訳法*	2	○			
		⑯コミュニケーション能力 その他	日本語コミュニケーション技法	2	○			
			総合中国語 I	2	選択 4単位以上			
総合中国語 II	2							
朝鮮語 I	2							
朝鮮語 II	2							
フランス語 I	2							
ロシア語 I	2							
計			56単位以上					

※「○」印は必修。科目名の「*」印は国際コミュニケーション学科科目を受講。

3年次に「日本語教員養成課程」登録を行うので、所定の申込方法に従って課程登録すること。ただし、登録は2年次修了までに「社会・文化に関わる領域」で10単位以上、「教育に関わる領域」で4単位以上、「言語に関わる領域」で16単位以上、計30単位以上を取得していることが課程登録の要件となる。

(5) 国内異文化体験の研修について

国内にある国際的な環境で異文化体験、国際交流を通じた異文化コミュニケーション体験により、地域の多様性への気づき、自己発見の機会となる研修活動を重視し、国内外の研修の整備を計画している。

特に、北海道をフィールドにして豊かな自然を生かしたライフスタイルや異文化環境、地域活性化について体験的な学びを行うことを目的として、1年次の必修科目の「ニセコ国際研修」と選択科目の「アウトドア・ツーリズム研修」を設けている。

1) ニセコ国際研修

北海道にしながら、異文化体験ができる後志地域の特性を利用して、現地でのインターンシップや通訳ボランティア活動、国際交流、そして地域交流などを融合させた「ニセコ国際研修」を1年次の必修科目として実施する。

2) アウトドア・ツーリズム研修

実際のアウトドア・スポーツの体験を通して、北海道の観光産業におけるアウトドア・スポーツ観光の開発とその観光プロモーションを考え、現地に宿泊しながら実施する。

(6) 海外体験について

国際交流を通じた異文化体験により、自己研鑽、自己発見の機会となる体験活動により、語学力向上及び国際舞台で活躍するための素養を身につけるとともに、日本人としての誇りとアイデンティティを再認識することの大切さに繋がる貴重な経験の機会となる留学制度を設けている。

1) 短期語学研修

早期の外国語学習の動機付けと、海外での異文化体験や異文化接触により、世界における自分自身と日本の立ち位置を再認識し、国際社会で活躍するための体験的素地を形成することを目的に、「短期語学研修」を2年次に必修科目として行う。

2) 私費留学

英語圏及び中国語圏の協定校での語学研修プログラムに参加する留学プログラム。

3) 交換留学

本学の海外協定校において語学学習と異文化体験、及び協定校で開講されている正規の授業を受講し、語学力や知識を身につけること、コミュニケーション能力やチャレンジ精神、積極性、行動力を身につけることで、これまでの学習成果を確認し、新たな課題を見つけ、今後の学習への動機づけとすること目的としている。

(7) 進級要件について

1・2年次の必修科目等、基礎的学習事項の定着を図り、卒業までの発展・応用への自律的学びを身につけてもらうことを目的として、進級要件を設けている。

1) 2年生から3年生への進級

原則として、2年次終了時に、卒業要件単位のうち、合計62単位以上修得することを3年次進級の要件とする。